

美しくなつかしい、日本をのせて。

# Cradle

[クレードル] 出羽庄内地域文化情報誌

3

2018 March/April  
TAKE FREE  
NO.46

特集  
庄内札所  
三十三観音  
御開帳  
庄内憧憬  
ましませつこ 絵本作家



Cradle 3  
「クレードル」 出羽庄内地域文化情報誌

2018 March/April  
平成30年3月1日発行(隔月奇数月発行)第8巻4号(通巻46号)

発行 / Cradle事務局 山形県鶴岡市山王町8-15(株式会社 出羽庄内地域デザイン) 電話0236(64)0888  
制作 / Cradle編集部 山形県酒田市京田2-59-3「コアック・コマーシャル・ラボ」 電話0234(41)0012

FIDEA GROUP



鶴岡市 / 月山と羽黒山大鳥居

春の鼓動 透き通る空へ

 庄内銀行



私の根っこは鶴岡で生まれ育ったのだと、改めて気がついた。致道博物館には、伝統を大切に、新しいものを受け入れる庄内の気風が表れている。

## ドールハウスは 夢の遊び場 ましませつこ

昨年の秋、酒井天美さんから、致道博物館で開催中のドールハウス展のお誘いがあり、興味津々、急きょ帰省した。いつか父から、先祖は信州から出羽の国、庄内藩に入部した酒井のお殿様に同行して鶴岡に来た」と聞いた。父は天美さんと大学が同じで面識があったことから、酒井忠久、天美さんのご長男、忠順さんに私の絵本を差上げた。そのことがきっかけで私もお近づきになった。10年ほど前、致道博物館で絵本の原画展をした時、絵本に描いた風景、人、動物、小道具のほとんどは幼い頃から見慣れたものが多く、やはり私の根っこは鶴岡で生まれ育ったのだと改めて気がついた。酒井さんご夫妻とは長い間、温かいお付き合いをいただいている。

このたびの展覧会も心に残った。会場は、イギリス、アメリカ、ドイツ、スイス等のミニチュアの家々

の少女ハイジの家や、ピーターラビットゆかりの家もある。磯貝氏の初めての作品「けいこの家」も目を引いた。幼いお嬢さんの要望を採り入れたとのこと。親子のほほえましい会話が聞こえそうで、しかも力強い。そしてふと気がついた。このドールハウスをぜひ子どもたちに見せたい。きっと未知の外国を想像したり、将来の自分の家を思い描いたりして遊ぶのではないか。ドールハウスは大人も子どもも楽しめる夢の遊び場だと思う。

由緒ある致道博物館に、またさらに楽しい宝物が加わったことは、伝統を大切に、新しいものを受け入れる庄内の気風がよく表れていると思った。工事中の旧鶴岡警察署の庁舎も6月には修復を終え公開されると聞いた。私は、次の鶴岡行きがますます楽しみになった。



昨年秋に致道博物館で開催された「磯貝吉紀ドールハウスの世界」展の作品に見入る、ましませつこさんと酒井天美さん

ましま・せつこ／絵本作家。鶴岡市生まれ。東京都在住。女子美術大学図案科を卒業後、広告デザインの仕事に携わったのち、子どもの本の世界に入る。「わらべうた」でデビュー。初期作の『うめぼしさんのうた』『あかいそり』『こよみともち』以上福音館書店）ほか、主な作品にまごみちお作『ママだいすき』『ママさん』（以上、こくま社）など。日本の伝統的な色彩や図柄を用い、情緒とモダンが溶け込んだやわらかな画風で、時代を超えて多くの世に親しまれている。



# 御開帳 三十三観音 庄内札所

特集  
Special Edition

北は海沿いのまち・遊佐町の女鹿から、南は月山麓にある旧朝日村大綱まで、庄内札所三十三観音霊場は、人々の大切な聖地として守られ、受け継がれてきました。

開創308年を迎える今年は35カ所の霊場が一同に御開帳を行う年。観音様との良きご縁を結ぶ旅に、いざ進まん。

北は海沿いのまち・遊佐町の女鹿から、南は月山麓にある旧朝日村大綱まで、庄内札所三十三観音霊場は、人々の大切な聖地として守られ、受け継がれてきました。

開創308年を迎える今年は35カ所の霊場が一同に御開帳を行う年。観音様との良きご縁を結ぶ旅に、いざ進まん。



維新明治二己年八月  
十六日  
施主  
猪俣也  
金野岩治

第三十番札所高寺山照光寺本堂に掛けられている絵馬。慶応3(1867)年、旧朝日村大綱にある注連寺山内成就院の68歳になる母が、12人の子どもを連れ、自らの長寿と子らの健康に感謝して観音参りをする様子が描かれています。

《参考資料》庄内札所会「庄内札所三十三霊場巡り」



人々の苦しみ・悲しみを救う時、三十三の姿に変化して現れるという観音菩薩。その信仰に由来した三十三所の観音霊場をめぐる巡礼は、1300年前に近畿地方で始まり、全国に広まりました。

# 観音様の功德を授かる 庄内三十三霊場めぐり

今年5月1日～10月31日 《御開帳》

## 308年前から続く 庄内札所霊場のあゆみ

聖観音を御本尊に持つ羽黒山と十  
一面観音が御本尊の鳥海山、如意輪  
観音が御本尊の金峰山の三山に囲ま  
れ、古くから観音信仰と修験道が盛  
んだった庄内地方。この地に三十三  
の札所が開創されたのは、今から3  
08年前のことでした。羽黒山内の  
寺院住職が発願したのを機に、鶴岡  
市播磨の宝蔵院の住職が西国に赴き、  
第一番札所から第三十三番札所まで  
のお砂を庄内に勧請。羽黒山荒澤寺  
の大恵東水和尚が庄内一円の寺院の  
中から三十三の観音霊場を定め、西  
国のお砂を時計回りに納め歩き、御



詠歌を書いた札を各所に打ったので  
す。以来、庄内札所三十三観音霊場  
は人々の信仰を集めてきました。  
「この頃の庄内の三十三観音霊場の  
一番は寂光寺、つまり今の出羽三山



首番の羽黒山荒澤寺は、出羽三山の開祖・蜂子皇子が修行した地で、今なお残る羽黒山伏の修験道場。聖観世音が祀られています。(写真提供：羽黒町観光協会)

## 首番札所羽黒山荒澤寺

## 三十三霊場めぐりを 通して得られるもの

以来、庄内札所三十三観音霊場は  
首番の羽黒山荒澤寺に始まり、番外  
の慶光山観音寺を入れて三十五の札



所に。最上・置賜の三十三観音霊場  
と合わせ、昭和平成と多くの人々が  
心の安楽を求め、札所めぐりをし  
てきました。「札所めぐりは、観音様  
を拝みながら少しずつ過去のもの  
を取り払い、新たな気持ちで生き直す  
という生まれ変わりの旅です。その  
ため本来は、死装束を意味する笈摺  
を身にまとい、写経を納めて観音様  
に読経をあげたら、笈摺に印を押し、  
最後の札所にその笈摺を納めていた  
のです。時代が代わり、今は御朱印  
帳に印を押し、持ち帰る巡礼者が多  
くなりました」。

1300年前、西国・長谷寺の徳  
道上人が、冥土で閻魔大王から三十  
三の観音霊場を巡礼すれば救われる  
ことを世に広めるようにいわれ、授  
かった三十三の宝印にしたがって三  
十三の霊場を定めたことが始まりと  
いわれる西国三十三所巡礼。時を経  
て、庄内地方に設けられた庄内札所  
三十三観音霊場は、時代に合わせて  
札所が変わりながらも、観音様が  
らっしゃる大切な聖地として守られ、  
受け継がれてきました。

その三十五寺がまとまって初の御  
開帳したのは平成2年のこと。今  
年5月からは4度目の御開帳が行わ  
れます。期間中は、通常お姿を隠し  
ている観音様が公開されるだけでな  
く、観音様から続く五色の綱(緑綱)  
が設けられ、それに触れると観音様  
に直接触れたのと同じ縁が結ばれ  
るといわれています。だからこそ今  
まで札所めぐりをしたことのない人  
に、訪れてほしいと話す島津さん。  
「めぐる順番は札所の番号にこだわ  
らず、何番からでも大丈夫です。最  
初は形式にもあまりこだわらず、心  
静かに観音様に手を合わせ、ただ拝  
んでいただければ。そうやって札所  
をめぐるうちに、さまざまな発見や  
今までにない心のあり様を見つけ  
ることができると思いますよ」。

## 一番札所 羽黒山正善院

御開帳の時に設けられる「回向(えこう)柱」と「五色の糸(緑綱)」。写真は平成28年に正善院黄金堂で行われた出羽三山大権現と於竹大日如来の御開帳より。  
(写真提供：羽黒山荒澤寺正善院)





# 羽黒山・正善院

〔第一番札所〕

もとの名を「小金堂」といい、等身大の御本尊、三十三体の聖観世音菩薩が黄金色に映えることからこの呼び名になったという「黄金堂」。ひとたび足を踏み入れれば、数多の観音様に包まれた極楽浄土の世界が広がっています。

## 札所めぐりを通して伝えたい「道」

記録によると、羽黒山正善院の本堂である黄金堂が建立され、東二十三カ国の総守護として三十三体の等身大の聖観世音像が安置されたのは、建久4（1193）年のこと。以来、多くの人々が香の煙や燈明のゆらめきを感じながら三十三体の観音様と向き合い、手を合わせてきました。

羽黒山正善院副住職の長南弘道さんは話します。「黄金堂には明治の神仏分離の際、羽黒山内から救出された80余りの仏像が安置されています。その中には旧一番から三番札の寂光寺や五重塔の御本尊も含まれています。これらが現存するのは、国策に反しても大切な信仰の心を残そうとした方々のおかげです。首番



毎年1月18日、三十三体の観音様が安置された黄金堂では、初観音新春祈禱結願大護摩供が執り行われています。

札所である荒澤寺も残されたもののひとつです。羽黒山奥の院で、月山の始まりにある荒澤寺は、蜂子皇子が修行をされた重要な聖地。だから札所改編の際、一番よりも最上を意味する首番とつけたのです。

現在、荒澤寺は羽黒修験の根本道場として、一番札所の正善院黄金堂は出羽三山立体曼荼羅を有する国指定重要文化財として、古来の出羽三山信仰を伝える貴重な地となっています。「私たちが大切にしているのは、形ではなく、道です。観音様も自分が修行者という気持ちで手を合わせれば知恵を授けてくれます。そして札所をすべてめぐるときは違う自分になっていることでしょう。それが本来の信仰というものですから」。

## 出羽三山信仰と庄内札所霊場

庄内の観音巡礼と出羽三山信仰は切り離せない話なのは、当院副住職の長南慈恵さんです。「観音様は現在に生きている私たちの悩みや苦しみを三十三のお姿に変わって救ってくださる仏様です。そして出羽三山信仰は、開祖の蜂子皇子が羽黒山で観音様を感得したことから始まりました。そのため出羽三山信仰には、里の行である観音巡礼を経て、山の

行に進むという教えがあるのです」。

かつて各地域には講という組織が存在し、巡礼はその講で行われていました。女性にとっては公で許された唯一の旅行です。慈恵さんは、その時に年長者

が若者たちに、神仏に手を合わせ、先祖や親を敬うといった日常の心構えを教えたので話します。「そして教えられた方は、自分の仏心と向き合い、次の行へ進んでいく。その先にあるのは羽黒山の観音様、月山の阿弥陀如来様、湯殿山の大地如来様の教えです。そして最終的に出羽三山のよみがえり信仰へとつながっていくのです」。

日本三大修験山に数えられる出羽三山。庄内札所は、その壮大なる信仰世界の大切な扉なのかもしれません。



羽黒山荒澤寺正善院黄金堂

「ぜひお子さんやお孫さんを連れて札所めぐりをしてください」と副住職の長南慈恵さん。



〔特集〕  
庄内札所  
三十三観音御開帳

## 観音様って？

観音様とは、如来になるための修行中の菩薩で、「音を観る」ことから万人の声を聞いて救いを与える仏様といわれています。多くの種類が存在しますが、日本で仏像としての作例が多いのが六観音。苦しみの度合いが異なる6段階の世界を表す六道には、それぞれの世界を救済する観音様が一種類ずつ存在します。この六道輪廻に基づいた観音様は庄内札所三十三観音霊場にも多く安置されています。庄内で拝める観音様は次のとおりです。

### 聖観世音



地獄道にいる人々を救う観音様です。頭1つ腕2本が一般的で、宝冠に小さな阿弥陀如来が置かれているものが多くあります。

### 千手観世音



餓鬼道にいる人々を救う観音様です。千本の腕にはどのような人でも漏らさず救おうという広大な慈悲力が表されています。

### 十一面観世音



修羅道にいる人々を救う観音様です。本面という大きな顔の上に11つの小さな頭（頭上面）が載っている像が多くあります。

### 准胝観世音



真言宗で人間道にいる人々を救う観音様です。顔は1つで眉間に第3の目を持ちます。また18本の腕を持つのが一般的です。

### 如意輪観世音



天道にいる人々を救う観音様です。顔は1つですが腕は2本か6本のどちらかで、6本の場合は右の第2手に如意宝珠を持ち、第3手に法輪を持っています。

### 勢至観世音



正しくは大勢至菩薩といい、阿弥陀如来の右脇侍として観音様とともに並ぶ三尊のひとつです。独尊で祀られるのは多くありません。



# 生石山・延命寺

〔第十八番札所〕

酒田市の東方、鷹尾山(標高352メートル)の麓の延命寺は、中世、山岳修験の入山口として大いに栄えました。その境内に立つと、1000年前、弘法大師がこの地に託した平和への願い、人々の信心が今も静かに伝わってきます。

## 現世と来世の平和を願う 鷹尾山修験道の拝所

酒田市生石、かつて多くの修験者が歩いた本坊坂、今は舗装されたその急な坂道を登りきると、真言宗の智山寺院「延命寺」境内へと至ります。「参道付近に見られる石垣積みは宿坊の跡です。修験者は宿坊で精進齋し、表口の拝所である延命寺で修行を重ね、この先の鷹尾山の山頂伽藍を目指したとされています。山頂近くには今も『三千坊谷地』の名が残りますが、一説には3千人のお坊さんが修行へ入ったと伝えられています」そう話しながら広い境内を案内してくださったのは、延命寺第29世住職の伊比圭司さんです。昔時18カ寺の坊舎を有した延命寺は、南北朝時代、山岳信仰の聖地である



延命寺 第29世住職  
伊比 圭司さん  
平成17年より継職。延命寺ご本尊の不動明王尊の御前にて。

出羽三山をしのぐ勢力を張っていった。「鷹尾山修験道が隆盛を極めたのは、山頂から鳥海山と月山を一度に拝することができたためです。鳥海山は現世利益を与える薬師如来、月山は極楽浄土へ導く阿弥陀如来、今の世と後の世を両拝できたということですね。」

## 山に、木に、神宿る 自然信仰の巡礼地

その後、明治期の廃仏毀釈や、大正期の火災などに見舞われながらも、二体の観音様に守られ、お寺は復興を遂げてきました。境内の観音堂に鎮座するのは「日限聖観世音菩薩」。厨子に2メートルを超える観音様が腰を据えています。「御堂を改築した時に、この観音様を調べたら胎内仏が見つかりました。もとは頭部に納まっていたようですが、足もとの台座に蓮華の花びらが落ちてきていて気がついたんです」。15センチほどの胎内仏は寄木造りで宝髻が高く、鎌倉時代の造像と見られています。片やもう一体の



宝永7年、近郷の肝煎が寄進したと伝えられる聖観音はまるで“大仏観音”といえる御姿をしています。

「聖観世音菩薩」は一本造りの等身大立像。「この観音様は、背面に焼けたような跡があります。識者の方によりますと、これは雷に打たれた木とのこと。雷は『神鳴り』、神の御意志で選ばれた木で造られたのだと。自然を崇拝する日本人の信

し、お寺は生まれてから亡くなるまでを学ぶ場所といわれます。今、社会的に多くの不安がありますが、時々世の中から離れて、お寺に来て本来のご自分を取り戻していただく、皆様にとってそういう悟りと学びの場所となればと思います。」

【特集】  
庄内札所  
三十三観音御開帳

## 巡拝の作法

### ◎初めて巡礼する方へ

巡礼する際の作法は、特にこだわる必要はありません。観音様にお参りするとう謙虚な気持ちがあれば大丈夫です。ただ、観音様やお寺の方に対する敬意と礼儀は忘れたくありません。そのための基本的なマナーをまとめました。

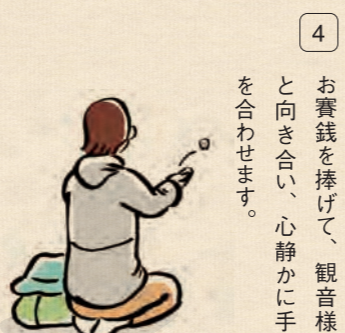
1 到着したら境内に入る前に一礼します。



2 水屋で身体を清めます。ひしゃくを右手で持って左手を洗い、左手に持ち替えて右手を洗い、もう一度右手に持って、左手で受けた水で口をすすぎ、ひしゃくの柄を清めて戻します。



3 鈴などがあれば鳴らして観音様にご挨拶をします。



4 お賽銭を捧げて、観音様と向き合い、心静かに手を合わせます。

5 納経所(御朱印所)で所定の納経代をおさめ、御朱印をもらいます。この時、お寺の方々と会話するのをおすすめします。



6 境内を去る時にも、門前で一礼します。

もっとも大事なものは、観音様を拝み、自分と向き合うことです。ご朱印帳に印をいただくのは、お参りが終わってからにしましょう。



# 新山・龍覚寺

〔第二十八番札所〕

# 金峯山・青龍寺

〔第三十三番札所〕

龍覚寺は、羽黒山の別院として建立され、のちに庄内藩主酒井家のご祈祷所として庄内一の寺格を誇りました。金峯山のふもと、青龍寺は打ち止めの札所にあたり、観音堂にはたくさんの方々が納められています。

## 城下町の安寧を願う 市井の人々の観音聖地

850年ほど昔、羽黒山は険しい霊窟で女人禁制とされ、万人が詣でることはできませんでした。「女性や子どもたちも参拝できるように、羽黒山のご本尊の聖観世音菩薩の分身を勧請され、大宝寺城の三の輪に別院として創建されたのが始まりと伝えられています」と龍覚寺の縁起を話してくださったのは、当寺住職の齋藤啓純さんです。その後、龍覚寺は二転し、現在の場所へ移築。酒井公の入部で城や城下町が整備されると、龍覚寺は城の北東にあたることから鬼門封じのご祈祷所となり、

一躍、庄内最上位の寺格寺院となりました。寺領150石、祈祷料50石を与えられ、江戸末期までは護摩堂も構え、多くの修行僧がいたといいます。現存する観音堂は、酒井家第

〔新山龍覚寺〕

火伏、厄除け、ころり観音の名で親しまれ、信仰を集めてきた聖観世音菩薩。龍覚寺には他にも多くの仏像が安置されています。



五代藩主忠義公の修造で、さまざまに仏像、権現様が奉安されています。「龍覚寺は羽黒山の隠居寺ともいわれていたようですが、江戸中期頃からは金峯山との縁が深く、共に真言宗醍醐派に属し、金峯山内の住職は、最後に龍覚寺の住職を務めあげる高僧が多かったようです」。龍覚寺は江戸時代以降、学びの舎として知識人や文化人が集いました。かの森敦も足しげく訪れたといわれています。



## 学舎として、寺院として 生きる力を得る場所

金峯山は修験道の山として栄え、山内にはいくつもの寺院がありました。「金峯山は誰でも登拝することができました。1000を超える供養塔や石碑があり、多くの人に慕われて、厚い信仰を集めていたんですね」。齋藤住職が兼務している青龍寺は、金峯山内の「学頭坊」として、学びの寺と位置付けられていました。

が来るまで信心が変わることはありませんでした。それはご利益を得ることだけが目的ではなく、自分の気持ちを仏さまに表すことが『信仰』だったからだと思います。仏像は、人々に功德を与えるために仏師が丹精して造ったもの。仏様と向き合うことは、願いと願いの重なり、自らの行いを顧みる、大切な時間なのかもしれません。

〔金峯山青龍寺〕

切金の彩色が美しい、ご本尊の如意輪観世音菩薩。明治時代の神仏分離で、金峯山中の宮から移されました。

「明治時代の神仏分離令で、金峯山山の仏像は青龍寺に移されました。等身大の仏像だけでも36体もあったそうです。しかし明治14年の火災ですべて焼失してしまいました」。学びを得る人、観音様を拝する人、寺院は人々の心のよりどころでした。「龍覚寺観音講の人たちは、お迎え



龍覚寺、青龍寺 住職  
齋藤 啓純さん

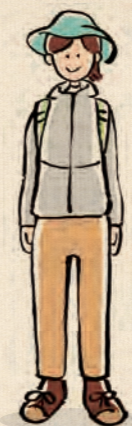
〔特集〕  
庄内札所  
三十三観音御開帳

## 巡礼の 服装・持ち物

### ◎初めて巡礼する方へ

巡礼する際の服装や用具は、特に決まりはありません。観音様にお参りするとういう謙虚な気持ちがあれば大丈夫です。ただ、礼儀としてお堂に入る時や観音様を拝む時は、帽子を外した方がよいでしょう。

服装に決まりはないですよ。



また庄内札所会では、初めての方でも安心して三十三霊場めぐりができるように、案内図（パンフレット）やガイドブックを用意し、各札所で頒布しています。



庄内札所三十三霊場  
巡礼案内図



庄内札所三十三霊場ガイドブック

基本的に巡礼は観音様とご縁を結び、自らと向き合うためのものなので、心の持ち様が大事です。日常生活と異なる聖地で、ゆつたりとお参りください。また、もし巡礼を進める中で、数珠やご朱印帳、奉納用の線香、専用の装束などが必要と感じた際には、それらを順次そろえてみるのもよいかもしれません。

庄内札所三十三観音納経帳



専用の装束や用具については、各札所で住職などにお気軽に尋ねてください。





庄内札所  
三十三観音  
霊場一覽



1 羽黒山 荒澤寺〔聖観世音〕

鶴岡市羽黒町手向字羽黒山24 ☎0235-62-2380  
よのひとの ねがひもみつ の やまふかく  
のぼればよまき のりのつちかけ

2 羽黒山 正善院〔聖観世音〕

鶴岡市羽黒町手向字手向2285 ☎0235-62-2380  
たのもしき のりのひかりの こがねどつ  
つちぬちかひも よよにしられて

3 長瀧山 善光寺〔聖観世音〕

庄内町三ヶ沢字宮田2 ☎0234-56-2533  
さざはしの のぼるがごとく ぜんこうじ  
おろがむくどく めうがぞあらなん

4 福地山 長現寺〔聖観世音〕

鶴岡市羽黒町狩谷野目字高坂32 ☎0235-62-2004  
もろびとの ねがひもふかき ふくちどう  
だいじだいひの ちかいたのもし

5 桃林山 永鷲寺〔十一面観世音〕

鶴岡市添川字池苗代40 ☎0235-64-2667  
だれもみな いのるころは ようじどうじ  
ふかきねがひを うるぞつれし

6 白狐山 光星寺〔十一面観世音〕

庄内町三ヶ沢字中里47 ☎0234-56-2533  
つきとにも あまねくてらす こうしょうじ  
のりのひかりを あきらかにみん

7 寺尾山 法光院〔如意輪観世音〕

鶴岡市黒川字宮の下290 ☎0235-57-3866  
すみぞめの ころもやさらす くらかわの  
なにもみのりの あらわれにけり

8 梶尾山 地藏院〔千手観世音〕

鶴岡市馬町字枇杷川原97 ☎0235-33-0750  
いつのひか またうまますの こぞうこん  
うまれあわせし きょうをよめん

9 湯殿山 大日坊〔聖観世音〕

鶴岡市大綱字入道11 ☎0235-54-6301  
ちかひおく あまねきみなの みほとけに  
ころをこめて ねがへおほあみ

10 良茂山 持地院〔千手観世音〕

酒田市日吉町1-4-38 ☎0234-24-1164  
たのもしや むかしながらの こねおへん  
よくこそしげれ つひのたまひ

11 見龍山 円通寺〔准胝観世音〕

酒田市麓字楯の腰50 ☎0234-64-2163  
のぼりなば あとふりかへれ ぶんとよま  
ぼだいのみちを いそげともども

12 洞瀧山 総光寺〔聖観世音〕

酒田市総光寺沢8 ☎0234-62-2170  
としをへて よもやかれの ののひくら  
なかやまでらの あらんかきりば

13 東林山 宝蔵寺〔聖観世音〕

酒田市山寺見初沢154 ☎0234-62-2169  
おのづから ひらくたからの くらなれば  
いつかはつる のりのやまひ

14 梅枝山 乗慶寺〔如意輪観世音〕

庄内町余目字鐘27 ☎0234-42-3410  
ありがたや みにあまるめの じょうけい  
ともにたのむは このよのちのよ

15 本居山 龍澤寺〔聖観世音〕

酒田市茗ヶ沢字沢尻140 ☎0234-23-3315  
いのるより はやはらなる みようがらわ  
のちのよかけて われをむかへよ

16 松河山 海禅寺〔十一面千手観世音〕

遊佐町吹浦字横町54 ☎0234-77-2101  
よそならじ こふだらくの らかんいわ  
きしうつなみを いながらにきく

17 薬王山 東光寺〔十一面観世音〕

酒田市飛鳥字大道端104 ☎0234-52-3366  
ただたのめ いらかもたかく とぶとりの  
あすかてらの ひろさちかひを

18 生石山 延命寺〔聖観世音〕

酒田市生石字大森山164 ☎0234-94-2361  
あらたなる のりのしるしに おほしの  
おまきさわりも いまはのこら

19 鳥海山 龍頭寺〔十一面観世音〕

遊佐町上麻岡字松ヶ岡45 ☎0234-72-2553  
よにひろき ちかひはつきじ とりのうみ  
ちひろのそを よしはかると

20 春王山 光国寺〔聖観世音〕

酒田市日吉町1-3-8 ☎0234-22-1653  
これやこの うききにあへる かめがらわ  
かかるとのりの よにうまれきて

21 鳥海山 松葉寺〔如意輪観世音〕

遊佐町吹浦字丸岡148 ☎0234-94-2361  
みはるかす よものやまかは とりうみの  
たかきをあほぐ めがのしらなみ

22 清流山 洞泉寺〔千手観世音〕

三川町猪子甲85 ☎0235-66-2023  
たすねいる ひとぞかわれ とくのりの  
あまねきかどの てらゐなりけり

23 光国山 勝伝寺〔聖観世音〕

鶴岡市播磨己43-44 ☎0235-29-2279  
はりまなる しかまことほは ほんま  
のりをおもへば ちちよりぞゆへ

24 萬歳山 冷岩寺〔十一面観世音〕

庄内町待川字阿古屋42 ☎0234-56-2141  
かりかわや かりのよながら きただての  
ながればかりは かるることなし

25 明石山 龍宮寺〔聖観世音〕

鶴岡市加茂 ☎0235-33-3879  
たつのみや ちひろのそこの うろくづも  
もらひすすくふ めぐみたのもし

26 大日山 長福寺〔十一面観世音〕

鶴岡市湯田川乙35 ☎0235-35-2226  
わかかへる いでゆにひとを たすくるも  
みなだいじひの ちかひならずや

27 大日山 井岡寺〔勢至観世音〕

鶴岡市井岡甲166 ☎0235-22-7084  
いのおかや むすぶつひの みつあや  
あかぬみてらを またたつねん

28 新山 龍覚寺〔聖観世音〕

鶴岡市泉町113 ☎0235-24-2033  
よをまもる のりのしるしに あらたなる  
やまのこするに ありあけのつき

29 修行山 南岳寺〔聖観世音〕

鶴岡市砂田町3-6 ☎0235-23-5054  
いくちとせ くにやさかえん ころがをか  
たえぬみのりの はなのかさじに

30 高寺山 照光寺〔千手観世音〕

鶴岡市羽黒町高寺字南畑76 ☎0235-73-2774  
たのもしな めぐみはよもに たかてらの  
やまわけころも つゆにぬれても

31 湯殿山 注連寺〔聖観世音〕

鶴岡市大綱字中台92 ☎0235-54-6536  
かのきしに ねがひをかけて おほあみの  
ひくてにもるる ひとあらじな

32 太白山 吉祥寺〔千手観世音〕

鶴岡市板井川字村西43 ☎0235-22-7886  
ちよをへて しげれるすきの いたいがは  
ながれてきよき のりのみなかみ

33 金峯山 青龍寺〔如意輪観世音〕

鶴岡市青龍寺字金峰6 ☎0235-24-2033  
めぐりきて こがねのみねに のぼるみは  
はすのうてなの いろとこそみれ

番外

慶光山 観音寺〔十一面観世音〕  
酒田市亀ヶ崎5-1-38  
☎090-3363-4790(3月〜7月)  
☎0234-22-4396(8月〜12月)

御開帳期間

平成30年5月1日〜10月31日

庄内札所三十三観音霊場をめぐるガイドブックや  
リーフレットについてのお問い合わせ先は次のとおり。  
●庄内札所会事務局(二番札所 羽黒山金剛樹院)  
☎023516212564



## 庄内町新産業創造館 クラッセの いとこ煮3種

森敦の小説『月山』では  
なぜか「泣きたくなるような味」  
と表わされている  
庄内のいとこ煮。でも実際は  
「ほっこりほほえむやさしい味」だ！

「いとこ煮」。煮えにくい材料を鍋においおい（甥甥）に入れていくことから、あるいはめいめい（姪姪）に煮ることから、その名が付いたといわれるこの料理。全国各地に同名のものがあるが、カボチャと小豆の甘じょっぱい煮物だったり、根菜と小豆のしょうゆ味の汁物だったり、内容はじつにさまざま。そんな中、庄内地方のいとこ煮は、もち米と小豆と砂糖と塩のみでつくるといいう、めずらしくも甘いほっこりスイーツなのだ。

かつては米どころ庄内の、自家製の材料を使った農家のおもてなし料理だったというこのスイーツ。祖母から母や子へ伝えられたその味は、もち米の比率が高かったり、反対に小豆の方が高かったり、家によってまちまちで、甘さもやわらかさもそれぞれだという。まさに家庭の味。この隠れた郷土料理、いやスイーツを、レトルトパックにして広めようと考えたのが庄内町新産業創造協議会だ。庄内町は庄内の中でもいとこ煮の普及率が高く、「発祥地」説まである地域。協議会は平成25年4月に発足すると、馴染みの味を広めるべく試作に乗り出した。そして26年5月に庄内町新産業創造館クラッセがオープンすると、まもなく販売を開始。その後、我が家の味も商品にしたいという人が登場し、3種のいとこ煮が並ぶに至った。

それにしても、もち米と小豆が材料なら、ぼたもちと変わらないのではと思う皆さん。いやいやこれがまったく違う。もちもちとやわらかい食感から醸し出される、小豆の素朴な風味とやさしい甘さ。赤飯に見えて食べると甘というそのギャップ。その衝撃体験は、ぜひこのレトルトで。



庄内町新産業創造館クラッセ「なんでもバザールあつてば」のいとこ煮は、右のように見た目から異なるため、食べくらべてお好みのものを。季節によってカボチャが入っているバージョンもあります。また、同協議会ではいとこ煮の新しい食べ方も提案中。アイスクリームや生クリームを添えたり、パンに挟んだり。真空加圧加熱殺菌をしているため長期保存も可能です。

庄内町新産業創造館クラッセ ☎0234-42-3266

(取材・文 長谷川結)







田沢川支流の小林川の煌めき

土間の壁には当時の生活道具が無造作に掛けられていた。家の奥にある一向宗信仰の仏間は貴重である。廊下の木戸は閉ざされていたが、そこから見る庭の池は凍てつき、春に咲く紅白の椿の木もまだ雪に覆われていた。座敷には酒田風が

茅葺の雪解雫の細りゆく

―あべ小萩

ると、独特の削り肌をした柱が目に入ってきた。材料に「雑木」を使い、「鉦」で仕上げたものだという。土間の先の囲炉裏には薪が焚かれ、竈から湯気が上り、煙が立ちこめ、どこか懐かしさを感じる。煙は自然に茅葺の屋根を燻蒸して、虫やカビを駆除する重要な役割をする。

立春の白無垢の藁家かな

―川端茅舎

人の横顔の形をした山形県のちようど目のあたりにある酒田市(旧平田町)山元地区は、当時、庄内と最上を結ぶ与蔵峠の交通の要所であった。普段は往来も少なくひっそりとしていて、田沢川はいつもよりその煌めきを増して流れている。雪の下では新しい命が息づき、蕾を膨らませた杉木立が春の兆しを覗かせる。



旧阿部家の居間

春寒の  
旧阿部家を歩く

立春も過ぎ暦の上では春といっても雪国の春はまだ遠い。  
この冬一番の寒さを迎えた朝  
朝日の煌めきと蒼穹に心を踊らせ  
春の兆しを探しに出かけた。

庄内俳句紀行

季語  
春寒  
(しゅんかん)  
立春以後に続く  
寒さ。

飾られていた。

土蔵の灯りに誘われ、中に入るとさまざまな生活雑貨や、普段目にするのできない時代のコレクションもあり、宝探しをしているような気持ちになる。

夜は楽し餅花の影にぎやかに

―池内たけし

毎年2月11日には、小正月行事が行われ、梨だんごづくりや雪中田植えなどで、地元の子どもたちの声が響き渡る。3月に入ると、庄内一円から寄贈されたというお雛さまが座敷一面に飾られる。その頃には、日に日に春の訪れを感じるようになる。

春寒や一尺ほどの藁庇

―野口光江

外に出ると、茅を伝って屋根の雪解水の玉が輝きながらコロコロと降りてきた。帰り道、体中に染み付いた燻蒸の香りに、今はなくなりつつある昔の暮らしを想う。暮らしは時代と共に便利になったが、ここには残すべき日本の原風景があった。



雪中田植え



茅葺屋根の軒下に伸びた氷柱



梨だんごづくり

◆酒田市指定文化財 旧阿部家【坂本新田村肝煎住宅】  
酒田市山元字上千刈田27  
写真・文 Ⅱ あべ小萩(月刊俳誌「月の匣」同人、俳人協会会員)